

謹賀新年

本年もよろしくお願ひ致します

新年あけましておめでとうございます。駒門駐屯地におかれましては日頃からの駒門駐屯地に対するご支援ご協力に対し深く感謝申し上げます。

駒門駐屯地は、昭和三十五年に開設され、多くの部隊の新・改編、移駐・廃止等があり、現在では上級部隊や任務・特性の異なる十三個の部隊で構成されています。

昨年八月に駐屯地司令に着任以来、要望事項を「感謝」と掲げ、勤務してまいりました。これは駒門駐屯地に所在する部隊の任務・特性等は異なるものの、駒門駐屯地の歴史・伝統を築き上げてきた諸先輩や各部隊、地域の皆様への「感謝」を忘れることなく、また、駐屯地各部隊が協力しあい「感謝」の気持ちを持ち、駐屯地及び地域の充実発展に努めたいという考えから要望したものになります。

今年は丙午（ひのえうま）という干支であり、情熱や挑戦の年といわれています。駒門駐屯地としても、各部隊が心置きなく任務に就くことができるよう生活勤務環境等、各種基盤の改善や更なる地域の活性化に情熱をもって尽力する所存でありますので、旧年同様のご支援ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



機甲教導連隊長 兼 駒門駐屯地司令
1等陸佐 櫻井 秀平

ごあいさつ



広報

駒門

KOMAKADO

発行所

駒門自衛隊協力会
事務局：富士岡支所
TEL 0550-87-0976
裾野市自衛隊協力会
事務局：裾野市役所
TEL 055-995-1874

連絡所

駒門駐屯地広報
〒412-8585
御殿場市駒門5-1
TEL 0550-87-1212

印刷所

エビスLLC
〒412-0021
御殿場市二枚橋312-1
TEL 0550-70-0022



駒門自衛隊協力会
会長 山田 宏二



裾野市自衛隊協力会
会長 志村 宏之

新年明けましておめでとうございます。皆様方には良い年を迎えられましたでしょうか。また、新し年を迎え駒門駐屯地との共存共栄に力を注いでまいります。

昨今の世界の状況も気の休まる状態ではありません。協力会の話とは少々外れますが、昨今東富士演習場共に初めての射撃が2回行なわれました。第一に十月七日陸上自衛隊による多連装ロケットシステム（MLRS）による射撃、十月二十七日には米軍の高機動ロケット砲システム（HIMARS）の射撃が共に国道469号を一時通行止にして行われました。

この訓練に賛否は色々ありましたが、自衛隊の射撃は今まで北海道の矢別演習場で行なわれ時間もお金もかかる為なそうで地元としては演習場がある以上協力せざるをえないと思います。

この様な状態でも我々は自衛隊を応援しています。本年も宜しくお願いします。

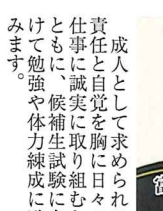
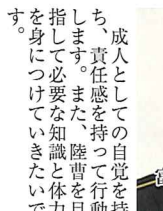
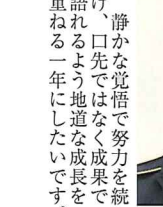
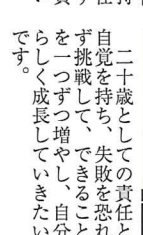
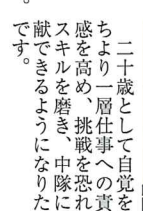
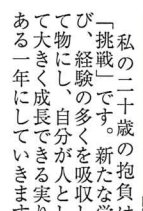
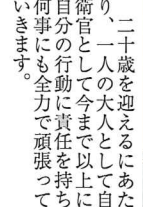
新年あけましておめでとうございます。また、自衛隊員の皆さまにおかれましては、日々訓練に励み、有事に備えておられることと思われませんが、地域住民として、心より敬意を表します。

さて、国外ではウクライナ、パレスチナなど、引き続き情勢が厳しく、近隣諸国においても不安を感じる昨今です。また、国内では、各地で災害が相次ぐ中、自衛隊に対する国民の期待がますます高まっております。昨年、災害対策の支援要請があったことも記憶に新しいところで、さまざまな要請に応える自衛隊員のご苦労はいかばかりかと察しますが、駒門自衛隊協力会といたしましては、駒門駐屯地と富士岡地区住民の相互理解を図り、交流を通して自衛隊員の皆さまを支援して参りたいと存じます。

結びに駒門駐屯地の皆さまのご健康とご活躍を祈念申し上げ、年頭のあいさつとさせていただきます。

令和8年に二十歳（はたち）を迎える隊員の紹介

令和八年に二十歳を迎える、機甲教導連隊、第一高射特科大隊及び関東補給処富士燃料出張所、計二十三名の隊員を紹介致します。



祝 1万人突破!

フォローお願いします!

駒門駐屯地

第23回富士岡公園祭り

令和七年十一月八日(土)、富士岡公園(御殿場市大坂)において、第23回富士岡公園祭りが開催された。駒門駐屯地は、テント二十一張、機四十台、紅白幕八枚を設置し、会場運営を支援したほか、軽装甲機動車及び1/2tトラックの装備品を展示し、自衛隊に対するご理解とご協力を呼びかけた。祭りは、天候にも恵まれ、昨年以上に盛り上がりを見せ、多くの来場者で賑わった。



駒門駐屯地司令によるあいさつ



多数の見学があった装備品展示の軽装甲機動車及び1/2tトラック

ワークキッズ(work&kids)開設

駐屯地厚生センター一階ファミリーマート正面に令和七年十一月四日(火)から子供を見守りながら勤務できるスペース「ワークキッズ(work&kids)」を開設。

ワークキッズは、急な休園・学級閉鎖・出校停止等により急遽、子の面倒を見る必要が生じた隊員が、休暇を取得せず子供を見守りながら勤務ができる勤務環境を整備した。



子供の勉強を見守りながら勤務する隊員



部屋は緊急登庁支援(キッズサポート)ルームを活用

機甲教導連隊

徹甲弾射撃訓練



北富士演習場B射場

機甲教導連隊は、令和七年十一月十七日(月)機甲科が学生教育として実施する徹甲弾射撃訓練の支援基盤を活用して、連隊の徹甲弾射撃訓練を実施し、徹甲弾に関する射撃諸元を収集するとともに、弾丸効力について確認させ、射撃精度の向上を図った。射撃当日は晴天に恵まれ、秋の深まりと冬の気配を感じる壮大な富士山を背景に、張り詰めた空気の中、徹甲弾ドーム内に対して正確な射撃を行い、所望の成果を得ることができた。引き続き、連隊は練度向上と教育研究支援の任務完了に、まい進する。

国際活動教育隊

日独防衛交流



独連邦軍国連訓練センター長来庁

国際活動教育隊は、日独防衛交流の一環として、令和七年十月十日(金)、ドイツ陸軍から若年将校二名の来訪を受け、部隊の概況説明や隊の若年幹部との懇談を実施しました。また、令和七年十一月四日(火)から五日(水)の間、ドイツ連邦軍国連訓練センター長ヴェルナー・クラフス大佐による来訪を受け、概況説明に引き続き、課程教育の訓練視察、意見交換等を行い、日独間のPKO交流を促進して、より一層の信頼向上を図りました。

第一高射特科大隊

令和七年度体力検定競技会(駆伝の部)



優勝した高射中隊

第一高射特科大隊は、令和七年十二月五日(金)、駒門駐屯地内において、自衛官として必要な基礎体力の向上、隊員の士気の高揚及び部隊の団結の強化を図る目的で「令和七年度体力検定競技会(駆伝の部)」を実施した。本競技会は、各中隊の建制を保持した計十二チームの中隊対抗形式で、駆伝コースをチーム五名で走り順位を決定した。本競技会に向けて、各中隊は年度当初から訓練の間隙をぬって時間走等を計画的に実施し、隊員の体力向上を図った。結果は、接戦の末、高射中隊が見事優勝の栄誉を勝ち取った。

駒門駐屯地業務隊

駐屯地消防訓練



放水訓練の様子

令和七年十一月十一日(火)業務隊は、「駐屯地消防訓練」を実施し、駐屯地各部隊の防火係を参集し、自衛消防活動に必要な通報・初期消火・避難誘導等の要領について教育するとともに、建物備え付け消防設備である屋内消火栓の使用法について準備から放水までの一連の動作を演練し、火災発生時における初動対処能力の向上を図った。業務隊は、引き続き隊員が安心して任務を遂行できる環境構築に努めている。

高射直接支援隊

台風22・23号八丈島災害派遣



炊事中の隊員

高射直接支援隊は、令和七年十月十七日(金)から十一月八日(土)の間、台風22号及び23号被害に伴う災害派遣(八丈島)において、第一師団で編成された生活支援隊の給食支援班に炊事要員として参加した。被災者の方々へ温かい食事を提供するため、現地の公民館にて炊事を実施して、時折掛けられる被災者の方々の御言葉や笑顔にやりがいを感じながら支援任務を完了した。

富士燃料出張所

第一線救護競技会関東補給処選考会



選考会の様子

富士燃料出張所は、令和七年十一月二十一日(金)、霞ヶ浦駐屯地において実施された第一線救護競技会関東補給処選考会に参加した。選考会には、激励を含めて出張所長以下五名が参加し、各部等代表十三チームにより「第一線救護」心肺蘇生法の二種目について優秀を競った。出張所の代表選手については、僅かの差で入賞を逃したが、審判長の評価判定の記録を元にさらに練成訓練を実施して、所員の救護能力の向上に努めていく。

定年退官予定者

機甲教導連隊

曹長 田中 潤

令和八年一月十六日(金)

准尉 福田 一成

令和八年二月二十五日(金)

第一高射特科大隊

1曹 矢口 博文

令和八年一月二十二日(水)

駒門駐屯地業務隊

准尉 伊藤 和博

令和八年三月十九日(木)

准尉 沖 武範

令和八年三月三十一日(火)

1尉 早野 順一

令和八年四月二日(木)

1曹 芹澤 智昭

令和八年四月二十八日(火)

基地通信隊駒門派遣隊

曹長 望月 淳

令和八年一月二十七日(火)



国際任務

派遣海賊対処行動支援隊(DGPE)



1等陸尉 増田 美沙



2等陸曹 宮本 慎介

【第24次要員として派遣中】